



終点のマンダレー方面から、同工区で最大規模のバゴ駅を望む

ヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業
フェーズ1 CP102 (ミャンマー)

鉄建建設・りんかい日産
建設(現RN建設)JV

複合的リスク克服しサービス向上

ミャンマーのヤンゴン・マンダレー線は、同国最大の商業都市ヤンゴン、首都ネピド、第二の商業都市マンダレーを結ぶ重要な鉄道路線だ。一方、設備の老朽化や維持管理の不足により、列車速度の低下・遅延、脱線事故が多発し、安全性や輸送サービスの低下が深刻な課題となっていた。今回プロジェクトでは、鉄道の改修により騒音低減、乗り心地の向上、保守作業量の削減を実現し、鉄道輸送サービスの安全性、速度、快適性の向上を図った。

老朽設備を更新、ロングレール化



起点であるヤンゴン方面から見たバゴ駅

鉄建建設・りんかい日産建設(現RN建設)JVは、老朽化した設備や橋梁、ボックスカルバートなどを改修するとともに、レールの規格を英国規格BS75RからJIS50Nに交換し、ロングレール化。約80kmにわたる区間で構造物の新設、軌道と信号設備の改修



パヤジー駅付近の大型踏切

を担った。旅客列車の最高運行速度は時速100kmに設定され、ヤンゴン・マンダレー間の所要時間が8時間以内とすることを目標とした。現在は、ヤンゴン・ネピド間を約5時間半で結ぶ。施工中は技術的な課題だけでなく、政変やコロナパンデミックに伴う移動規制などによる資機材調達遅延といった想定外の状況に直面した。複合的リスクに見舞われる中でも事業の遂行に必要な体制を維持し、関係者間で調整を重ねることで各種課題に着実に対応し、2024年に鉄道整備を完了させた。

概要

- ◇実施者＝鉄建建設・りんかい日産建設(現RN建設)JV
- ◇実施国＝ミャンマー
- ◇実施都市・地区＝バゴ管区
- ◇プロジェクト関係者＝発注者/施主：運輸通信省ミャンマー国鉄、設計者：オリエンタルコンサルタンツグローバル・日本コンサルタンツ・パシフィックコンサルタンツ・トーニチコンサルタンツ・日本工営JV
- ◇実施期間＝2018年10月～24年7月



116B橋梁の全景